

# 事業再生のみちしるべ

## Vol.10 事業再生の向こう側に

### 生き残りをかけて

事業再生は自社の現状把握(デューデリジェンス)により課題・問題点を明らかにすることから始まり、解決のための行動計画(アクションプラン)と計数計画を決定したうえで、ひたすらそれを実現するために行動します。また、社外の人(再生支援協議会、金融機関、専門家)に計画の進捗状況を確認(モニタリング)してもらいながら、実現可能性を高めていきます。これらの過程はいわば究極のPDCAサイクルと言えるでしょう。

生き残りをかけてこれら究極のPDCAサイクルを経験された会社は、人間の体に例えるとぜい肉(無駄)がそぎ落とされ筋肉質になっていきます。体幹(経営方針)も鍛えられていき、揺らぎがありません。その結果、血流(資金)も良くなり、徐々に健康を取り戻していきます。

また、自分の体のことが普段から良くわかっているので、新たな病气(危機)が生じたときには、早く的確に対処できるようになりますので、生き残る確率が格段に高まっていきます。

### アフターコロナを見据えて

現在はコロナ禍で非常に厳しい環境下にあり、多くの会社が苦境に立たされています。しかし、こういう時こそ自社を冷静に分析し、第三者の意見も求めながら、経営改善計画に取り組んでみましょう。国もアフターコロナに向け新しい事業再生の枠組みを検討しています。

これまで、事業再生について連載させていただきましたが今回が最後となります。最後までお読みいただきありがとうございます。



ビズリンク・アドバイザー株式会社  
取締役パートナー(税理士) 中井 功